

ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 122

「蓄光」という言葉には 光るという意味もあるのですか・・・



思いつきラボを掲載しているといろいろな質問やご意見をいただくのですがたまに予期していない問合せがくることがあります。テーマに書いている通りの質問なのですが 長いこと「蓄光」に関わっていますが いまさらながらドキッとしてしまいました。質問者によると「蓄電」は電気を蓄えることで「蓄熱」は熱を蓄えるという意味ですが 「蓄光」は光を蓄えるだけでなく発光するという意味もあるのですか？という内容のものでした・・・正直なところちゃんと考えたことはありません。



確かに通常会話では光るという意味を含めて使っています。では蓄電ということばに放電の意味を含めることはありませんし 蓄熱を発熱するという意味で使用することもありますので 質問者が疑問に思われたのも当然のことかもしれません。「夜光と蓄光の違い」とか「蛍光と蓄光の違い」などの質問を受けることは多いですが「蓄光」という単語にこのような疑問を抱（いだ）かれたことに感心してしまいます。一度気になってしまうとずっと気になってしょうがないのは筆者もおなじなので整理しておきたいと思います。

では辞書を調べれば・・・と本来はそのような手順になるのですが当方の手元にある広辞苑6版には「蓄光」の記載はありません。今年の2018年（平成30年）1月に発行された7版は確認できていませんがほとんどの辞書には掲載がありません。JIS C 5600 電子技術基本用語



の中にも「蓄光」についての説明はありません。ということは「蓄光」を定義している公共性の高いものはないということになります。いつの間にか光を蓄えて光を放つもの総じて「蓄光」と呼ぶようになって現状に至ったと考えられます。物理用語では「りん光（燐光）」という言葉を使いますがこちらは“物質が光を発する現象、またはその発する光のこと”という説明になっていますので 光を蓄えるという意味は含まれていません。

もともと「蓄光」という言葉が使われはじめたのは 蓄光式夜光塗料という文言で 1934年頃（昭和9年頃）の夜光塗料の説明書の中で使われたものが文字として残っています。当時は夜光塗料に放射性物質ラジウム（Ra）を加えることで継続発光させていたラジウム式夜光塗料があり その対比語として蓄光式夜光塗料という言葉ができたと考えられています。光を蓄えるタイプの夜光塗料ですよという意味合いで使われています。その後ラジウムに代わって放射性物質プロメチウム（Pm）が使われたりもしたのですが 放射性物質の使用を止（や）めたあとは蓄光式夜光塗料だけになってしまい いつしか簡略化していき「蓄光」だけで蓄光式

夜光塗料を意味する単語になったのではと推測できます。もちろん筆者の私見ではありますがたしかに「蓄光」という漢字からは光を蓄えとしか読み取れませんので 本来は光を発するという意味は持たないでしょうが 簡略化したものが慣例化して発光までを意味する言葉になったような気がします。

回答は・・・

今回の質問は思いも掛けないものでしたが 答えとしては「蓄光」という言葉には光を蓄えて光を発するという意味を持って使われています。という回答にしておきます。蓄熱発光や蓄圧発光という表現もありますので蓄光発光というほうが正しいのですが 簡略化されたもののほうが通例になっているということです。似たようなものに「静電気」という言葉がありますが本来は帯電した動かない電気のことですが 普段の会話では放電する現象も含めて使われています。

とても面白い質問でした。このような疑問 質問がありましたらまた是非お問合せください。一緒に考えたいと思います。広辞苑の 7 版には「蓄光」という単語は掲載されているのでしょうか・・・また余計なことが気になってしまいました。

原稿担当：竹中 直（チョク）

